

# リトアニア月報

## 2024年7月

在リトアニア日本国大使館

※本月報は月末現在の公開情報等を大使館で取りまとめたものです。

## 7月の振り返り

- 7月は、前半は高温好天が継続しましたが、月末の嵐のような暴風雨を経て、過ごしやすい快適な夏に戻りました。
- 内政的には、新たな欧州委員会においてリトアニアを代表する欧州委員の候補についてナウセーダ大統領とシモニーテ首相が合意に至らず、大統領の就任式、首相の再任に関する議会決議を経ても平行線のままの1ヶ月となりました。大統領の就任式では、チュミリーテ=ニールセン議会議長が、大統領や政府首脳は、この国のための連携協力とその為の忍耐も必要であるとの苦言を大統領に対して呈する異例のスピーチを行い、話題となっています。また10月の総選挙を前に一部の大臣を入れ替えるべきとの意見が、大統領や現在支持率筆頭の社会民主党党首から出ているとの報道もなされており、首相の忍耐と試練が続いています。そのような中、与党祖国同盟は、選挙名簿の筆頭に首相を、2番手にランズベルグス外相・党首、3番手にカシューナス国防相といった選挙態勢を固めました。中央選挙委員会は、期限までに19の政党を登録したと公表しました。
- 外交安全保障面では、7月からEU理事会議長国となったハンガリーのオルバーン首相によるロシアのプーチン大統領訪問等に対してリトアニアからも非難が巻き起こりました。またNATOワシントン首脳会合には大統領に加えて議会議長、外相、国防相もワシントン入りし、高い危機意識が示されました。一方、長らく議論されていた「クラスター弾に関する条約」からの離脱が決議され、リトアニアと共にロシアと国境を接する国の中で唯一加盟国だったノルウェーを中心に、いくつかの国から遺憾の声が伝達されました。ウクライナ支援面では、ロシアにより8日にミサイルで破壊されたキーウの大型の子供病院への百万ユーロの支援が決定され、また冬に備えてビリニュスにある発電所の一つを解体してウクライナに移転する旨がエネルギー省から公表されました。加えてキーウのリトアニア大使館に運輸担当書記官を10月から設置し、バルトからウクライナを経由して黒海、エーゲ海に至る輸送回廊の開発支援をする旨が発表されました。
- ビジネス面では、台湾最大の商業銀行である台湾銀行がリトアニアに駐在員事務所を設置すると報道されました。リトアニアの欧州からユーラシアへ跨がる地政学的ポジションを重視し、リトアニアを基点に中東欧でのビジネスを拡大する模様です。
- エネルギー面では、バルト三国の送電運用企業は、ロシア・ベラルーシ・バルト三国の間で連結される電力システム「BRELL リング」の契約延長を行わないことを決定しました。これにより、2025年2月にはロシアの影響力が強い電力グリッドから切断され、今後は欧州大陸電力システムへ同期化する予定です。
- 文化面では、100周年記念となった「歌の祭典」が、カウナスでのオープニング、ビリニュスでのフィナーレを中心に盛大に行われ、沢山の海外在住のリトアニア人も来訪し、この両都市のホテルは満室となりました。「May the Green Forest Grow」と称されたフィナーレは、6日、初代王ミンダウガス戴冠記念日(建国記念日)と同日にヴィングス公園で行われました。11500人によ

るコーラスが4時間にわたって行われ、訪れた2万数千人の人々も参加して、例年この日に行われる午後9時の世界同時国歌斉唱も、このフィナーレの中でも迫力をもって行われました。また、この前日の5日にはカウナス城野外劇場でオペラ「蝶々夫人」がプッチーニ没後100周年を記念して行われました。蝶々夫人含む主な配役に4人の日本人ソリストが招聘され、ポーランド在住でウクライナのオデーサ歌劇場首席客席指揮者でもあるマエストロ吉田裕史氏が指揮するという、杉原のレガシーを尊重し日本文化を愛するカウナスと日本人芸術家による画期的な取り組みとなり、大成功を収めました。

- また交流面では、名古屋市議会議員の藤田団長以下代表団の方々が来訪され、ビリニュス市との文化面での連携が模索されました。また広島県議会議員の中本議長以下代表団の方々と小丸在福山名誉総領事も来訪され、外務省やカウナス市役所を訪問、広島とリトアニアの文化・平和への取組が強調されました。小丸在福山名誉総領事は、アリートゥス市も訪問され、来年の世界バラ会議福山大会における連携が模索されました。

駐リトアニア日本国特命全権大使  
尾崎 哲

## －内政－

12日 ビリニュスは防衛力強化及び市民の安全対策の2つの柱から成る防衛政策計画を発表。防衛力強化は車輛進入防塞の設置、ドローン訓練場の新設及びドイツ軍の受入れが含まれる。市民の安全対策には、避難所の増設、避難計画の刷新及び市民への啓蒙活動等を掲げている。(LRT)

12日 リトアニア議会にてナウセーダ大統領の2期目の就任式が開催。ナウセーダ大統領は、ロシアに対する自由戦争におけるウクライナの勝利はリトアニアの優先事項であり続け、リトアニアは国際舞台でウクライナのために大きな声を上げ続けなければならないと述べた。チュミリーテ＝ニールセン議長は、大統領を含む自分たち全員が国を代表するチームの一員であり、その行動の協調が国全体の成功と繁栄の鍵であるという理解を持つことの重要性を強調した。(リトアニア議会)

29日 ビリニュスのベラルーシ土産店の窓ガラスが割られ、外壁にはベラルーシ人を侮辱する落書きが残された。警察は所有物の破壊または損傷に対する公判前調査を開始した。店はルカシェンコ政権を逃れ、ビリニュスに亡命中の元ベラルーシ人政治犯によって所有されている。ベラルーシ民主派指導者のチハノフスカヤ氏はこの破損行為を国内の不調和を煽る試みだとし、団結を表明するためリトアニアの政治家と店を訪問することを約束した。(BNS)

## －外政－

5日 オルバーン・ハンガリー首相がロシアを訪問したことに関してリトアニアの首脳らがX

にて抗議の意を表明。ナウセーダ大統領は「オルバーン首相が一方向的にモスクワ行きを決めたことは、いかなる形であれ、EUの立場を代表するものではない。また2024年欧州理事会議長国としてのハンガリーの信頼性を損なうものだ。本当に平和を求めるのであれば、血まみれの独裁者などと握手せず、ウクライナを支援するために全力を尽くすべきだ」と投稿。ランズベルギス外相は「手錠(handcuffs)を、握手ではなく(handshakes)」と投稿した。(Xの投稿取りまとめ)

12日 ランズベルギス外相はNATO首脳会合の共同宣言にハイブリッド攻撃の脅威が盛り込まれたことを高く評価した。同外相は「NATO諸国に対する攻撃がハイブリッドな性質を持つと考えられる場合、北大西洋条約第5条の発動さえも躊躇しないと言うのであれば、それはロシアに対する非常に強いメッセージである」と述べた。(リトアニア外務省)

## －安全保障・軍事－

5日 カシュウナス国防大臣は、リトアニアは米軍事企業大手のノースロップ・グラマン社とリトアニアでの30ミリ弾薬生産ラインの設置について協議していることを認めた。同大臣は国有のギライテ兵器工場(Giraitė Armaments Factory)が弾薬の潜在的な生産場所だと述べた。(BNS)

9日 ナウセーダ大統領がクラスター弾禁止条約から脱退する権限をリトアニア議会に与える政令に署名。ブドリース国家安全保障担当大統領首席顧問は、地政学的状況が大きく変化したため同条約から脱退する必要が出てきたと指摘。ウクライナの戦争の経験を踏まえ

るとクラスター弾は効果的であり、財政的にも実現可能であると付言した。ロシアと国境を接する NATO 加盟国のうち、この条約に加盟しているのはリトアニア及びノルウェーのみである。(ELTA)

9日 先進的な地雷探知技術を開発するリトアニアのスタートアップ企業ブロスワームズ (Broswarms)社が NATO Innovation Challenge で勝利した初めてのリトアニア企業となったと経済イノベーションが発表。(BNS)

10日 リトアニア政府は、ラドビリシュキス市に建設が予定されているラインメタル社の1億8,000万ユーロの弾薬工場に、喫緊の安全保障及び防衛のニーズを満たす事業のステータスを与えた。これにより通常の建設許可を取得せずに着工することが可能となった。(BNS)

10日 ベラルーシが同国内で中国と共同軍事演習を行っていることを受け、ナウセーダ大統領はウクライナ戦争に他国を巻き込もうとするロシアの試みを見て取るのが重要であると警告した。中国国防省は中国及びベラルーシはポーランドとの国境付近で対テロに焦点を当てた共同軍事演習を実施中だと発表した。(BNS)

11日 クラスター弾禁止条約から脱退する法案がリトアニア議会の第一回投票を通過。99人の議員が賛成、1人が反対、3人が棄権した。プレシュキス国防副大臣は「リトアニアが条約の締結国となって以来、安全保障状況は大幅に悪化し、リトアニアの安全保障に対する脅威も変化した。脱退を検討するに到った

根本的な変化は、ウクライナにおける戦争である」と述べた。クラスター兵器コアリション (Cluster Munitions Coalition: CMC)はリトアニアの条約脱退の動きに対する抗議声明を発表した。(ELTA)

15日 リトアニアとアイスランドが地雷除去コアリションに関する覚書を締結し、コアリション基金の設置を可能にした。リトアニアはコアリション基金に1,700万ユーロの初期拠出を行い、ウクライナの地雷除去装備に対する緊急のニーズに応じて、26台の M113装甲兵員輸送車と370機の対ドローン探知機をウクライナに輸送した。コアリションには現在日本を含む22か国が参加している。(BNS)

16日 ゴゲリエネ (Ms. Kamile Gogeliene) 前国防大臣顧問が国防副大臣に就任。前週国防副大臣を辞任したトムクス氏の後任となる。ゴゲリエネ新国防副大臣は、国防政策、ハイブリッド脅威対策、民間防衛、動員及び戦略的コミュニケーションの分野を担当する。(BNS)

18日 リトアニア議会はクラスター弾禁止条約からの脱退に関する法案で賛成多数で可決。103人の議員が賛成、1人が反対、4名が棄権した。カシュウナス国防大臣は「このような条約が重要であることは間違いない。条約が重要なのは、それが全ての国によって尊重される場合である。今回の問題は、ウクライナへの侵略を実行し、帝国主義的野心を持っているロシア連邦がこのルールを尊重していないことだ。我々がこの条約を批准し、加盟したのは別の時代だった。今はもっと事態は複雑になっている」と述べた。(リトアニア議会)

24日 ヴァイクシュノラス(Mr. Raimundas Vaiksnoras)大将がリトアニア軍の参謀総長に就任。2019年からリトアニア軍を率いたルプシース大将の後任となった。新参謀総長は、リトアニアにおけるドイツ旅団の受入れ、国家師団の設立及び国民皆兵制の準備を主な優先課題としてあげた。参謀総長の任期は5年。(ELTA)

## —経済—

19日 台湾最大の銀行である台湾銀行が、リトアニアから中東欧地域のビジネスを拡大する機会を求め、リトアニアでの駐在員事務所の設置を希望していることが明らかになった。在台北リトアニア通商代表事務所のルカウスカス代表によると、台湾の銀行は、TSMC によるドイツでの半導体新工場への投資計画など、台湾によるヨーロッパへの投資によってビジネスを後押しされている。台湾銀行には現在、米国、香港、日本、シンガポール、英国、南アフリカ及びオーストリアを含む11の駐在員事務所がある。(BNS)

24日 台湾銀行はリトアニアでビジネス顧客に焦点を当てる可能性が高いが、事業内容の詳細はリトアニア中央銀行からライセンスを取得した後に明らかになるだろうとスカイステ財務大臣は述べた。(BNS)

25日 シンガポールのフィンテック企業テルコイン(Telcoin)社がリトアニアで2社目を設立。同社は世界各国の携帯事業者及びモバイルマネー・プラットフォームと提携しており、米国、カナダ、オーストリア及び日本にオフィスを持つ。(BNS)

## —エネルギー—

16日 バルト三国の送電運用企業は、ロシア電力系統 BRELL 契約の延長を行わず、2025年2月に同電力系統から撤退することを正式にロシア及びベラルーシに通告した。ニエヴィエロヴィッチ・元エネルギー大臣は「これはリトアニア経済にとって、ポスト・ソビエトの世界からの最後の枷が外されたことを意味する」と述べた。(BNS)

16日 リトアニア議会は今年末に公示予定の第2回バルト海洋上風力発電所入札の条件を簡素化した。リトアニア議会は2社以上の応札が必要であるという基準を緩和し、少なくとも1者が入札に参加すれば入札成立とみなすこととした。(BNS)

## —文化—

5日 ジャコモ・プッチーニ作曲のオペラ「蝶々夫人」がカウナス城劇場で上演された。指揮者は吉田裕史マエストロが務め、蝶々夫人を始めとする主な役は日本人ソリストによって演じられた。(カウナス市)

19日 リトアニア国立美術館でゲルーナス館長によって企画された日本のポップカルチャー展「美人、妖怪、武士」がオープン。展示は江戸時代のポップカルチャーが日本の現代芸術家に与えた影響に焦点を当てる。ゲルーナス館長は東京藝術大学に留学した経歴があり、2010年から2012年まで文化大臣を務めた。(LRT)